



神経化学

Bulletin of the Japanese Society for Neurochemistry
Vol.51 (No.2), 2012

第55回日本神経化学会(神戸)大会

第11回アジア太平洋神経化学会大会

合同大会

プログラム号

目次

大会長挨拶..... 5

大会委員一覧..... 6

会場案内図..... 7

会場周辺図..... 9

交通案内..... 9

日程表..... 12

大会日程概要..... 13

参加者へのご案内..... 16

発表者へのご案内..... 19

学会からのお知らせ..... 21

理事会議事録..... 23

次回大会のご案内..... 32

学会掲示板..... 35

日本神経化学会 賛助会員 (50 音順) 47

謝 辞..... 48

投稿規定..... 49



日本神経化学会 行

(財)国際医学情報センター内

東京都新宿区信濃町35番地
信濃町煉瓦館

料金受取人払郵便
新宿支店承認
1833
指 出 有 効 期 限
平 成 25 年 6 月
30 日 まで

郵便はがき
1608792
376

第11回アジア太平洋神経化学学会大会
第55回日本神経化学学会大会

大会長：池中 一裕（自然科学研究機構 生理学研究所）

自然科学研究機構 生理学研究所 内
〒444-8787 愛知県岡崎市明大寺字東山5-1
TEL: 0564-59-5245 FAX: 0564-59-5247

株式会社コングレ
〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町 3 丁目 6-13
TEL : 06-6229-2555 FAX : 06-6229-2556
E-mail: jsn-apsn2012@congre.co.jp

<http://www.congre.co.jp/jsn-apsn2012/>

大会長挨拶

この度平成24年9月30日（日）から10月2日（火）までの3日間、「第11回アジア太平洋神経化学学会大会・第55回日本神経化学学会大会」を開催することとなり、現在鋭意準備を進めているところです。

日本神経化学学会は発足当初から、基礎系神経医学研究者と臨床系精神医学研究者が一同に会して討論する場を提供することにより、情報交換の促進と人的交流の推進を通じて、数多くの共同研究成果と果実を生み出して参りました。特に、神経化学を標榜する学会としては世界最古の歴史を誇る我が国には稀有な学会です。前回の第54回大会においても、この従来の歴史と伝統を可能な限り尊重し、大成功を収めました。第55回大会はアジア太平洋神経化学学会と合同で行い、アジア各国から200名以上の参加が見込まれております。本大会のプログラムは、9月30日から10月2日までの3日間、シンポジウム、一般口演、ポスター発表、ランチョンセミナーなどの各セッションを予定しています。国内外併せて600名以上の参加者が見込まれており、使用言語は英語を予定しています。

学会の当初からの伝統である活発な議論を踏襲するために、第51回富山大会から導入された、「一般口演重視」と「若手の育成」というプログラム編成が第52回伊香保大会および第53回神戸大会においても継続して好評を博しておりますので、本大会も引き続き、一般口演の多いプログラム編成および若手育成セミナーの企画を行います。これら神経化学学会独自の方向性を生かして、今回は神経疾患の分子病態解明を基盤とする創薬研究展開と医薬品適正使用を通じて、生活の質改善を指向するフロンティア領域開拓に向けた取り組みを重視しています。多様な学問的バックグラウンドをもつ研究者が、このような同一の目的を共有することで、基礎研究から臨床研究へと真のトランスレーショナル研究を育む場を提供したいと考えております。

なお、本合同大会は、同じ場所で9月28日から30日まで開催される日本生物学的精神医学会と連携して開催することになっており、9月30日は両学会が共に同じ場所で開催されます。この日は合同シンポジウムなども企画しています。まさに、基礎医学と臨床医学の研究者がアジア中から一同に集まり、分子脳科学を語ることをめざしております。是非、ご参加いただき、有意義な大会にさせていただきますよう心よりお願い申し上げます。

第11回アジア太平洋神経化学学会大会
第55回日本神経化学学会大会
大会長 池中 一裕
（自然科学研究機構 生理学研究所）

大会委員一覧

大会長

International Program Committee

Chair

池中 一裕 (自然科学機構 生理学研究所)

Woong Sun (Korea)

和中 明生 (奈良県立医科大学)

Peter Wong (Singapore)

池中 一裕 (自然科学研究機構 生理学研究所)

米田 幸雄 (金沢大学)

Andrew Lawrence (Australia)

Xiaobing Yuan (China)

Mitradas Panicker (India)

田代 朋子 (青山学院大学)

柳澤 勝彦 (国立長寿医療研究センター)

中嶋 一範 (慶応義塾大学)

西川 徹 (東京医科歯科大学)

米田 博 (大阪医科大学)

Local Organizing Committee

委員長

池中 一裕 (自然科学研究機構 生理学研究所)

井上 和秀 (九州大学)

木山 博資 (名古屋大学)

高坂 新一 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所)

御子柴克彦 (理化学研究所)

鍋倉 淳一 (生理学研究所)

島田 昌一 (大阪大学)

和中 明生 (奈良県立医科大学)

米田 幸雄 (金沢大学)

Working Committee

委員長

吉田 明 (生理学研究所)

馬場 広子 (東京薬科大学)

後藤 仁志 (京都府立医科大学)

林 晶子 (東京薬科大学)

等 誠司 (滋賀医科大学)

石橋 智子 (東京薬科大学)

鹿川 哲史 (東京医科歯科大学)

森田 光洋 (神戸大学)

成瀬 雅衣 (群馬大学)

小野 勝彦 (京都府立医科大学)

柴崎 貢志 (群馬大学)

清水 健史 (生理学研究所)

竹林 浩秀 (新潟大学)

山口 宜秀 (東京薬科大学)

吉村 武 (生理学研究所)

Travel Grant

委員長

米田 幸雄 (金沢大学)

Hyoung-Chun Kim (Korea)

Vladimir Balcar (Australia)

松田 敏夫 (大阪大学)

香月 博志 (熊本大学)

石毛久美子 (日本大学)

Student Oral Committee

委員長

馬場 広子 (東京薬科大学)

林 晶子 (東京薬科大学)

石橋 智子 (東京薬科大学)

山口 宜秀 (東京薬科大学)

若手育成委員会

委員長

鹿川 哲史 (東京医科歯科大学)

小泉 修一 (山梨大学)

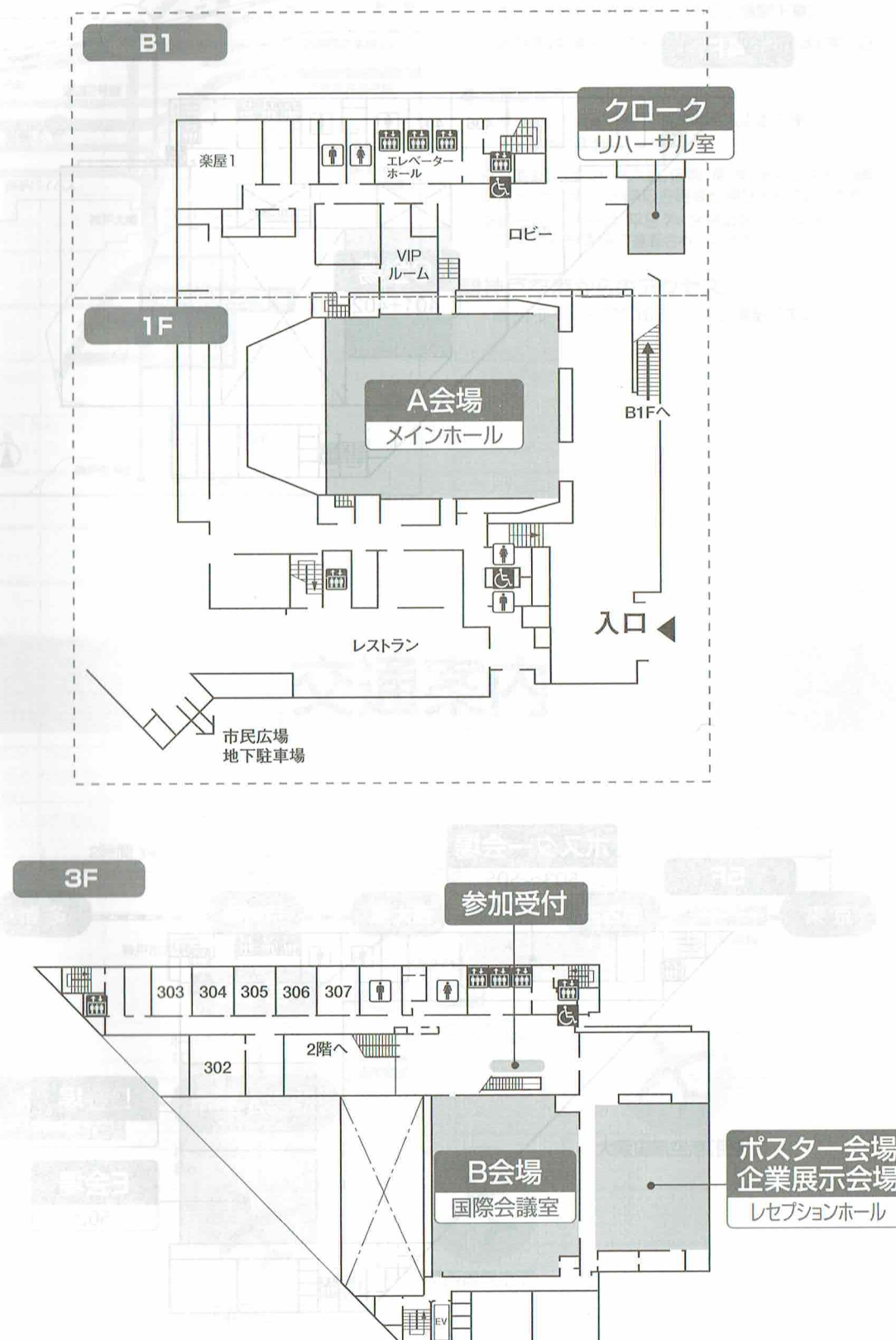
竹林 浩秀 (新潟大学)

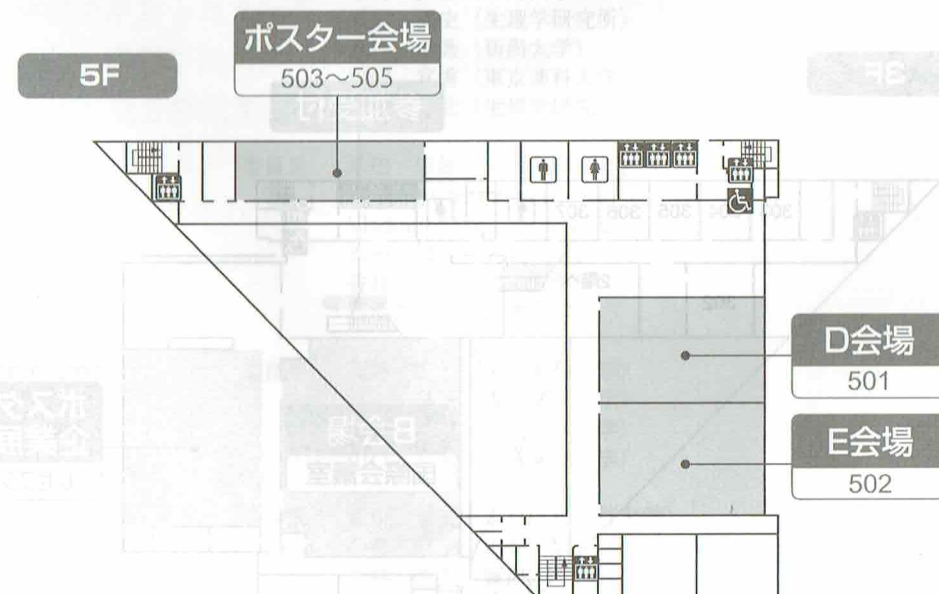
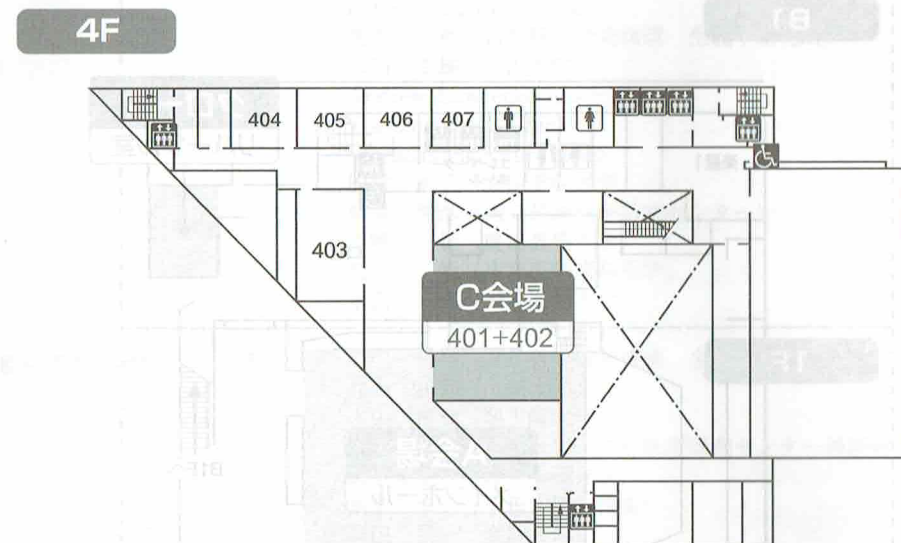
田中 謙二 (慶応義塾大学)

橋本 亮太 (大阪大学)

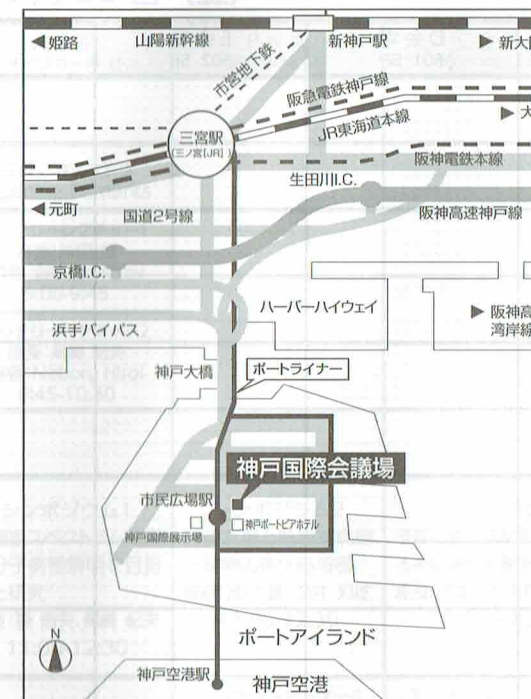
会場案内図

神戸国際会議場





会場周辺図



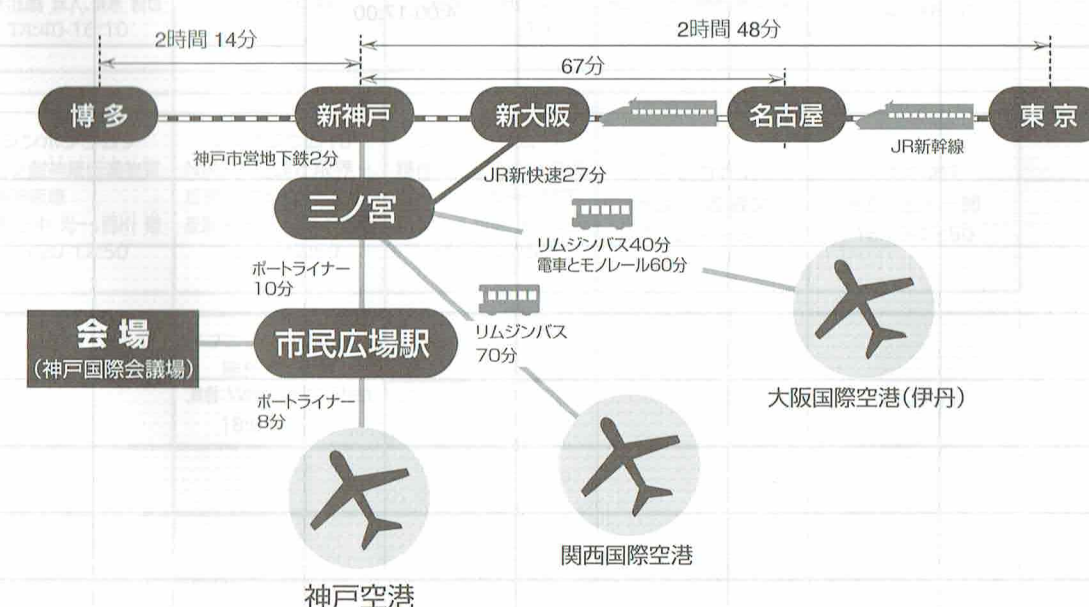
■駅からのアクセス

- JR 新神戸駅から
 - ・地下鉄で三宮まで約 3 分
 - ・ポートライナーで約 10 分(市民広場駅下車)
 - ※新幹線は、東京～新神戸間上り下りとも各 33 本/日
- 三宮駅から
 - ・ポートライナーで約 10 分(市民広場駅下車)
 - ・バスで約 10 分
 - ※三宮駅には、JR神戸線、阪急、阪神、神戸市営地下鉄、ポートライナー、バスの各路線が乗り入れております。
 - ※ポートライナーは、平日 7～9 時は約 3 分間隔、日中は 6 分間隔で運転されています。

■神戸空港からのアクセス

- ・ポートライナーで約 10 分(市民広場駅下車)

交通案内



第 34 回日本生物学的精神医学会 日程表

■ 9 月 27 日 (木)

	A 会場 メインホール 1F	B 会場 国際会議室 3F	C 会場 401/402 4F	D 会場 501 5F	E 会場 502 5F	
8:00						
30						
9:00						
30						
10:00						
30						
11:00						
30						
12:00						
30						
13:00						
30						
14:00						
30						
15:00						
30						
16:00						
30						
17:00						
30						
18:00						
30						
19:00						
30						
20:00						
30						

■ 9 月 28 日 (金)

	A 会場 メインホール 1F	B 会場 国際会議室 3F	C 会場 401/402 4F	D 会場 501 5F	E 会場 502 5F	ポスター会場 レセプションホール 3F
8:00						
30						
9:00	会長ごあいさつ Opening Remarks					
30	プレナリーレクチャー1 座長:米田 博 演者:George Kirov 9:00-9:45					
10:00	プレナリーレクチャー2 座長:尾崎 紀夫 演者:Noboru Hiroi 9:45-10:30					
30						ポスター掲示
11:00	シンポジウム1 自閉症スペクトラム障害 の分子病態解明を目指 した研究 座長:森 則夫,尾崎 紀夫 11:00-12:30	シンポジウム2 精神疾患と脳機能病態 と薬物応答反応指標 座長:西川 徹,油井 邦雄 11:00-12:30	シンポジウム3 予測と意思決定を制御す る神経回路と精神疾患 座長:成木 迅,高橋 英彦 11:00-12:30	シンポジウム4 漢方薬研究の最前線 ~基礎から臨床,臨床から 基礎への相互「統合」研究~ 座長:堀口 淳 11:00-12:30	Asian Biological Psychiatry Symposium 座長:工藤 喬 11:00-12:20	
30						
13:00		ランチョンセミナー1 座長:大森 哲郎 演者:Siegfried Kasper 共催:日本イーライリリー 12:30-13:30	ランチョンセミナー2 座長:岸本 年史 演者:Norbert Müller 共催:ヤンセンファーマ 12:30-13:30	ランチョンセミナー3 座長:田中 稔久 演者:川勝 忍 共催:エーザイ/ファイザー 12:30-13:30	ランチョンセミナー4 座長:大久保 善朗 演者:白川 治 共催:大塚製薬 12:30-13:30	
30						
14:00	総会・評議員会					
30						
15:00	シンポジウム5 うつ病はどこまで客観 化できるのか 座長:山脇 成人,須原 哲也 14:40-16:10	シンポジウム6 グリアと精神疾患 座長:池中 一裕,岸本 年史 14:40-16:10	シンポジウム7 認知症の分子病態と それに基づく治療 座長:前田 潔 14:40-16:10	シンポジウム8 電気痙攣療法・磁気刺 激療法の生物学的基盤 座長:本橋 伸高,鶴岡 聡 14:40-16:10	一般口演1 座長:佐野 輝 14:40-16:10	
30						
17:00	シンポジウム9 アミノ酸神経伝達物質 と精神疾患 座長:田中 光一,西川 徹 16:20-17:50	シンポジウム10 NIRSの基礎と限界一 症例を中心に 座長:福田 正人,中込 和幸 16:20-17:50	シンポジウム11 精神疾患研究の将来展 望ーゲノムと神経科学 座長:有波 忠雄,吉川 武男 16:20-17:50	一般口演3 座長:渡邊 義文 16:20-17:50	一般口演2 座長:曾良 一郎 16:20-17:50	
30						
18:00		イブニングレクチャー 座長:米田 博 演者:Winston W. Shen 18:00-19:00				
30						
19:00						
30						
20:00						
30						

第 34 回日本生物学的精神医学会 日程表

■ 9 月 29 日 (土)

(金) 日 8 月 9

	A 会場 メインホール 1F	B 会場 国際会議室 3F	C 会場 401/402 4F	D 会場 501 5F	E 会場 502 5F	ポスター会場 レセプションホール 3F
8:00						
30						
9:00	プレナリーレクチャー3 座長:笠井 清登 演者:池谷 裕二 9:00-9:45					
30	プレナリーレクチャー4 座長:鈴木 道雄 演者:村井 俊哉 9:45-10:30					
10:00						
30						
11:00	シンポジウム12 社会脳科学:領域を超えた融合と発展 座長:狩野 方伸、定藤 規弘 10:45-12:15	シンポジウム13 分子遺伝学の鍵分子からみた精神疾患 座長:功刀 浩、那波 宏之 10:45-12:15	シンポジウム14 グリア細胞の機能性精神疾患の病態生理における役割 座長:門司 晃 10:45-12:15	シンポジウム15 難治性精神疾患に対する深部脳刺激(DBS)療法:世界の現状とわが国の課題 座長:黒木 俊秀、森 則夫 10:45-12:15	一般口演4 座長:元村 直靖 10:45-12:15	
12:00						
30						
13:00		ランチョンセミナー5 座長:村井 俊哉 演者:岩田 伸生 共催:持田製薬/田辺三菱製薬/吉富薬品 12:30-13:30	ランチョンセミナー6 座長:上島 国利 演者:三村 将 共催:ファイザー 12:30-13:30	ランチョンセミナー7 座長:山田 和男 演者:Robertas Bunevicius 共催:グラクソ・スミスクライン 12:30-13:30	ランチョンセミナー8 座長:笹 征史 演者:大野 行弘、野田 幸裕 共催:大日本住友製薬 12:30-13:30	
30						
14:00						ポスター発表 13:40-14:40 ポスターセッション1~3
30						
15:00	シンポジウム16 バイオリジカルマーカー研究からDSM-Vに向けて 座長:神庭 重信、橋本 亮太 14:40-16:10	シンポジウム17 老いを科学する-神経変性の視点から- 座長:岡澤 均、富田 泰輔 14:40-16:10	シンポジウム18 脳画像を利用した精神疾患研究シーズ 座長:前川 敏彦、大沢 俊幸 14:40-16:10	シンポジウム19 疲労医学の最前線 座長:切池 信夫、渡辺 恭良 14:40-16:10	一般口演5 座長:康 純 14:40-16:10	ポスター閲覧
16:00						
30						
17:00	シンポジウム20 大規模ゲノム解析研究がもたらす新しいパラダイム 座長:岩田 伸生、高橋 篤 16:20-17:50	シンポジウム21 分子イメージングによる精神疾患の病態と治療の評価 座長:大久保 善朗、須原 哲也 16:20-17:50	シンポジウム22 統合失調症におけるGABA機能障害 座長:篠崎 和弘、橋本 隆起 16:20-17:50	一般口演7 座長:岸本 年史 16:20-17:50	一般口演6 座長:白川 治 16:20-17:50	
30						
18:00						
30						
19:00				日本神経化学会 若手育成セミナー 18:15-20:00		
30						
20:00						
30						

第 34 回日本生物学的精神医学会、第 11 回アジア太平洋神経化学会大会、第 55 回日本神経化学会大会 日程表

■ 9 月 30 日 (日)

(月) 日 1 月 01

	A 会場 メインホール 1F	B 会場 国際会議室 3F	C 会場 401/402 4F	D 会場 501 5F	E 会場 502 5F	ポスター会場1 レセプションホール 3F	ポスター会場2 503/504/505 5F
8:00							
30							
9:00		シンポジウム23 遺伝子改変霊長類モデルを用いた精神神経疾患研究を目指して 座長:伊佐 正,山森 哲雄 9:00-11:00	シンポジウム24 動物モデルから見た発達障害研究 座長:内匠 透 9:00-11:00	シンポジウム25 発達障害の病態生理解明の最先端 座長:菊地 充,石井 良平 9:00-11:00	シンポジウム26 脳老化の初期と創薬 座長:武田 雅俊,柳澤 勝彦 9:00-11:00		
10:00	Opening Remarks						
30	Plenary Lecture 01 Impaired remyelination in chronic demyelinated lesions Kazuhiro Ikenaka 10:20-11:20						
11:00	受賞式 11:20-11:30 最優秀奨励賞 受賞者講演					ポスター発表 11:00-12:00 ポスターセッション4~7	
12:00		ランチョンセミナー9 座長:渡邊 義文 演者:倉知 正佳 共催:アステラス製薬 12:00-13:00	ランチョンセミナー10 座長:木下 利彦 演者:笠原 嘉 共催:Meiji Seika ファルマ 12:00-13:00	ランチョンセミナー11 座長:武田 雅俊 演者:Florence Thibaut 共催:MSD 12:00-13:00	ランチョンセミナー12 座長:内匠 透 演者:掛山 正心 共催:アボット ジャパン 12:00-13:00	ポスター撤去	
13:00	APSN/JSN-JSBP Joint Symposium	Symposium S01 Oxidative stress and antioxidants in disease models of the brain Chair: Samuel Chan 13:15-15:15	Symposium S02 Microglia in pain signaling Chair: Kazuhide Inoue 13:15-15:15			Poster I Mounting	
14:00	Pervasive Developmental Disorders (PDD) of the past, present, and the future Chair: Akira Sano and Ryota Hashimoto 13:00-16:00						
15:00		Young Investigator Colloquia 1 Cellular and behavioral plasticity 15:30-17:30	Young Investigator Colloquia 2 Multiple aspects of neurotrophins 15:30-17:30	Young Investigator Colloquia 3 Glial biology 15:30-17:30	Student Oral Session 1 15:30-17:30	Poster I Exhibition	
16:00							
17:00							
18:00	日本神経化学会 公開シンポジウム 17:30-19:30					Poster I Presentation	
19:00							
20:00							
30							

第11回アジア太平洋神経化学学会大会、第55回日本神経化学学会大会 日程表

■ 10月1日 (月)

	A会場 メインホール 1F	B会場 国際会議室 3F	C会場 401/402 4F	D会場 501 5F	E会場 502 5F	ポスター会場1 レセプションホール 3F	ポスター会場2 503/504/505 5F
8:00							
30							
9:00	Plenary Lecture 02 Development and Maintenance of Neuronal Polarity Mu-Ming Poo (Wiley-Blackwell Lectureship)						
30						Poster I Exhibition	
10:00		Symposium S03 Pathology of neurotrophins: their new insights into psychiatric and neurological disorders	Symposium S04 Dopaminergic regulation on drug addiction and neuropsychiatric disorders	Symposium S05 Autophagy and Proteasome Cross-talk in Neuropathophysiology	Student Oral Session 2 10:00-12:00		
30		Chairs: Masami Kojima and Bai Lu 10:00-12:00	Chairs: Ja-Hyun Baik and Joungh-Hun Kim 10:00-12:00	Chairs: Philip Beart and Ciro Isidoro 10:00-12:00		Poster I Dismantle	
11:00							
30							
12:00	日本神経化学学会評議員会 12:00-12:30	Luncheon Seminar 12:00-13:00	Luncheon Meeting for Scientific Meeting 12:00-13:00			Poster II Mounting	
30	日本神経化学学会総会 12:30-13:15						
13:00							
30							
14:00						Poster II Presentation	
30							
15:00		Symposium S06 Role of astrocytes in brain energy metabolism and diseases	Symposium S07 The Neurochemistry of Stem Cell Patterning and Applications for Neural Repair	Symposium S08 Autism spectrum disorders (ASD): from bedside to bench and bench to bedside	General Oral Session 1 Developmental Aspects of Neuropathology 15:00-17:00		
30		Chair: Albert Yu 15:00-17:00	Chairs: Lachlan Thompson and Clare Parish 15:00-17:00	Chairs: Makoto Sato and Norio Mori 15:00-17:00		Poster II Exhibition	
16:00							
30							
17:00							
30							
18:00							
30							
19:00							
30							
20:00							
30							

■ 10月2日 (火)

	A会場 メインホール 1F	B会場 国際会議室 3F	C会場 401/402 4F	D会場 501 5F	E会場 502 5F	ポスター会場1 レセプションホール 3F	ポスター会場2 503/504/505 5F
8:00							
30							
9:00	Plenary Lecture 03 T-type calcium channels, thalamic firing modes, and control of cognition Hee-Sub Shin						
30							
10:00	Young Investigator Colloquia 4 Neuropharmacology 10:00-12:00	Young Investigator Colloquia 5 Neurodegeneration 10:00-12:00		Young Investigator Colloquia 6 Development 10:00-12:00	General Oral Session 2 Molecular Mechanisms of Neurological Disorders 10:00-12:00		
30							
11:00							
30							
12:00							Poster II Exhibition
30							
13:00			Satelite Meeting 第17回 グリア研究会 共催: 田辺三菱				
30							
14:00	Symposium S09 Neurodegenerative diseases: molecular, diagnostic and therapeutic pathways Chair: Roberto Cappai 14:00-16:00	Symposium S10 Recent progress in nerve degeneration research and its therapeutic application chairs: Toshiyuki Araki and Hwan Tae Park 14:00-16:00		Symposium S11 Molecular Basis of Schizophrenia: From the Susceptibility Genes Chairs: Kozo Kaibuchi and Sang Ki Park 14:00-16:00	Symposium S12 Intracellular molecular mechanisms regulating neurogenesis and migration during cerebral cortical development Chairs: Itsuki Ajioka and Takeshi Kawauchi 14:00-16:00		Poster II Dismantle
30							
15:00							
30							
16:00							
30							
17:00							
30							
18:00							
30							
19:00							
30							
20:00							
30							

参加者へのご案内

●参加者の皆様へ

1. 参加証について

参加証（ネームカード）は、当日会場受付にてお渡しします（事前参加登録者を含む）。受付にて所属と氏名をご記入の上、大会参加中はネームカードを必ず着用してください。ネームカードのない方の入場はお断りいたします。

〈受付時間〉

9/28 (金)	8:30	—	17:30
9/29 (土)	9:00	—	17:00
	17:00	—	20:00 (Reception会場前)
9/30 (日)	8:00	—	19:30
10/1 (月)	8:00	—	17:00
10/2 (火)	8:00	—	16:00

2. 参加登録される方

参加費は以下の通りです。学部学生、及び大学院生の方は、受付に学生証を提示してください。

【参加登録費】

	早期登録 (2012年4月16日～7月31日)	事前登録 (2012年8月1日以降)
JSN会員、APSN会員	14,000円（非課税）	16,000円（非課税）
非会員	19,950円（税込み）	22,050円（税込み）
大学院生／学部生（筆頭著者）	3,000円（非課税）	4,000円（非課税）

(*JSN会員またはAPSN会員であること。筆頭著者発表を行わない学部学生の参加費は無料です。
受付時に学生証を提示してください。)

【懇親会 (Banquet) 費】

	早期登録 (2012年4月16日～7月31日)	事前登録 (2012年8月1日以降)
JSN会員、APSN会員 及び一般非会員	5,000円	7,000円
大学院生／学部生	3,000円	4,000円

3. 非会員の方

日本神経化学学会に入会希望の方は、下記事務局までお問い合わせください。

〈入会申込み連絡先〉

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
(財) 国際医学情報センター内 日本神経化学学会事務局
TEL: 03-5361-7107 FAX: 03-5361-7091
E-mail: jsn@imic.or.jp

4. 単位取得について

日本神経化学学会大会では、以下の専門医制度において資格・認定の更新に必要な単位を取得することができます。単位が必要な方は受付までお申し出ください。

社団法人 日本精神神経学会	精神科専門医	取得単位: C群 30点
一般社団法人 日本神経学会	専門医	取得単位: 2単位

●お知らせ

1. クローク

会期中は、B1Fクロークにてお荷物をお預かりいたします。

2. 呼び出し・伝言

アナウンスでの参加者の呼び出し、お電話の取次ぎ等は一切いたしません。3F受付付近に伝言掲示板を設けておりますので、ご利用ください。

3. 懇親会 (Banquet)

10月1日 (月) 19:00より、神戸湾クルージングがございます。当日は、18:15よりポートピアホール前の入り口からバスが出ます。定員制ですので、空席があれば9月30日 (月) まで参加受付可能です。

4. コーヒーブレイク

会期中、下記の時間帯でコーヒーブレイクを設けます。

9月30日 (日)	15:15	～	15:30
10月1日 (月)	9:30	～	10:00
10月2日 (火)	9:30	～	10:00

5. 会期中の昼食について

10月1日 (月) はランチョンセミナーが2企画あります。お弁当の数に限りがありますので、お早目に会場にお越しください。また9月28日(金)～30日(日)は、合同開催となります、第34回日本生物学的精神医学会のランチョンセミナーがございますので、そちらへの参加は可能です。また、10月1日 (月) には Science Publishing Session が開催されます。こちらは事前予約制で先着100名分の昼食が用意されます。

6. 禁止事項

- ・会場内での撮影・録画・録音はすべて禁止となっております。
- ・会場内は禁煙です。施設内の喫煙スペースは別途ご案内申し上げます。

7. 神経化学の若手研究者育成セミナー

日程: 2012年9月29日(土) ～ 10月1日(月)
会場: 神戸国際会議場501会議室、神戸ポートピアホテル

9月29日 (土)	18:30	集合
	18:30	～ 20:00 全体説明、ホテルチェックイン
	20:00	～ 22:00 夕食・グループディスカッション
	22:00	～ 消 灯 フリーディスカッション

9月30日（日） 日中 大会参加（自由行動）
19：30 ～ 20：15 夕食
20：15 ～ 22：00 グループミーティング
22：00 ～ 消 灯 フリーディスカッション

10月1日（月） 自由解散

問い合わせ先

若手研究者育成セミナーアドバイス委員会

鹿川 哲史

〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45

TEL：03-5803-5816

E-mail：kagawa.scr@mri.tmd.ac.jp

神経化学の若手研究者育成セミナー 講師

(敬称略)

御子柴 克彦	理化学研究所 脳科学総合研究センター 発生神経生物研究チーム
小 泉 修一	山梨大学 医学部 薬理学
那 波 宏之	新潟大学 脳研究所
田 中 謙二	慶應義塾大学 医学部 精神神経科学教室 情動の制御と治療寄附講座
久 保 健一郎	慶應義塾大学 医学部 解剖学
喜 田 聡	東京農業大学 応用生物科学部 バイオサイエンス学科
林 朗子	東京大学大学院 医学系研究科 疾患生命工学センター 構造生理学部門
加 藤 忠史	理化学研究所 脳科学総合研究センター 精神疾患動態研究チーム
柴 崎 貢志	群馬大学大学院 医学系研究科 脳神経発達統御学講座 分子細胞生物学分野

8. 特別シンポジウム

●日本神経化学学会公開シンポジウム

日程：2012年9月30日（日）17:30～19:30

会場：神戸国際会議場メインホール

発表者へのご案内

■口演発表

1. 発表・討論・進行

- 1) 発表形式は全て英語で行われます。
- 2) 各演者の発表・討論時間はプログラムに掲載されていますので、時間厳守をお願いします。
(発表時間終了1分前にお手元のランプが黄色に、発表時間終了時に赤に変わることににより、時間をお知らせします。シンポジウム：発表25分／討論5分、一般口演：発表15分／討論5分、学生口演：発表10分／討論10分)
- 3) 進行は座長にご一任します。ただ、終了時間の厳守をお願いいたします。
- 4) 演者は口演開始時刻20分前までに、演台前の前方席にお座りください。
- 5) 討論者は、討論用マイクがある会場においては、あらかじめマイクの前でお待ちください。

2. 発表機材

本大会の発表はPC(Windows)プレゼンテーションに限らせていただきます。以下の項目についてご確認ください。

- 1) 口演に使用する機材は、PCによる液晶プロジェクターです。会場に液晶プロジェクターを用意しますので、接続可能なPC（ミニD-sub15ピンにて接続）をお持ちいただき、液晶プロジェクターに接続してください。MacPCをお持ちの場合も必ず付属品をご用意ください。
- 2) お持込になるPCとミニD-sub15ピンケーブルとの接続に、PC専用のアダプター（PCの付属品）が必要な場合は、必ずご用意ください。
- 3) 口演に使用する図表（液晶プロジェクターの画面）につきましては、出来るだけ、英文にて作成してください。
- 4) ご自身のデータを必ずフラッシュメモリーでお持ちください。
- 5) PCをご持参いただく場合は、外部出力端子(mini-Dsub15pin)の形状をご確認ください。上記出力端子が本体に付いていない場合は、変換アダプターをご持参ください。また、バッテリー切れを防ぐため、必ず附属のAC電源アダプターをお持ちください。
*発表中にスクリーンセーバーや省電力モードにならないよう事前に設定をしてください。
- 6) ウィルスチェックは必ず行ってください。

3. 座長の方へ

- 1) ご担当セッションの開始時刻20分前までに、座長席前の前方席にお着きください。
- 2) 各演者の発表・討論時間はプログラムに掲載されていますので、時間厳守に留意していただき、円滑なプログラム進行にご協力をお願いいたします。(シンポジウム：発表25分／討論5分、一般口演：発表15分／討論5分、学生口演：10分／討論10分。)

4. 大学院優秀発表賞の選考

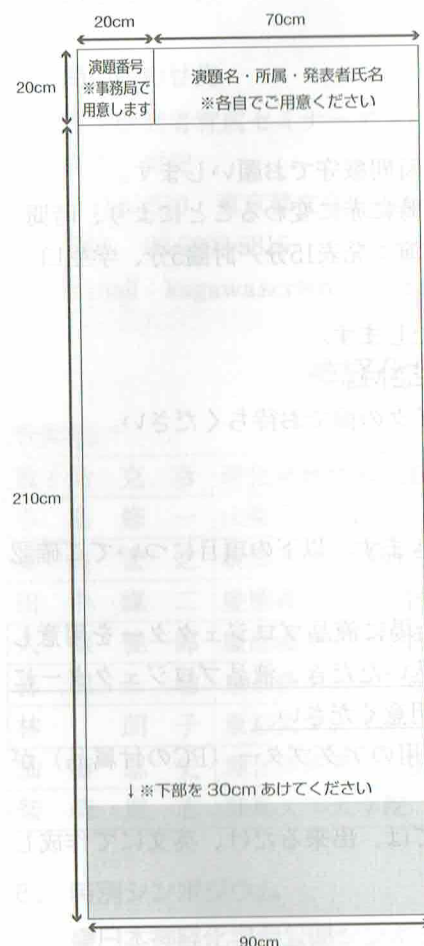
大学院生口演セッションごとに優秀発表賞該当者1名を選考する予定です。白熱した討論を期待しています。

■ポスター発表

1. 会場

ポスター発表は、3Fレセプションホール、および5Fポスター会場にて行います。

2. 発表要項



- 1) 左図のように、縦20cm×横90cmのサイズに演題名、著者名、所属を英語表記したものをご用意ください。
- 2) 発表内容は左図発表スペース（縦190cm 横90cm）に収まるようにしてください。
- 3) ポスターの原稿はすべて英語で作成してください。
- 4) 演題番号は運営事務局で用意いたします。
- 5) 貼付用ピンは各パネルにご用意しておりますので、のり、テープ等は使用しないでください。

3. 掲示・討論・撤去

- 1) ポスターの貼付・討論・撤去は下記の時間内に行ってください。

	貼 付	掲 示	発 表	撤 去
ポスターⅠ	9月30日（日） 13：00～14：00	9月30日（日） 14：00～17：30 10月1日（月） 8：30～11：00	9月30日（日） 17：30～19：30	10月1日（月） 11：00～12：00
ポスターⅡ	10月1日（月） 12：00～13：00	10月1日（月） 15：00～17：00 10月2日（火） 8：30～15：00	10月1日（月） 13：00～15：00	10月2日（火） 15：00～16：00

- 2) ポスター発表討論時間は第1日目と第2日目で異なりますので、ご注意ください。発表者は上記の討論時間には、ポスター前に待機してください。各パネルにリボンを用意しておきますので、討論時間には着用してください。
- 3) ポスター撤去の際、ご自身のポスター番号の撤去もしてください。
- 4) 撤去時刻終了後も掲示してあるポスター等は事務局にて撤去・処分をさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

学会からのお知らせ

1. 評議員会

日 時：10月1日（月）12:00～12:30

会 場：神戸国際会議場メインホール

- 議 題：1. 若手育成セミナーについて
2. 国際神経化学会（International Society for Neurochemistry：ISN）及びアジア太平洋神経化学会（Asian-Pacific Society for Neurochemistry：APSN）との関係について

2. 総 会

日 時：10月1日（月）12:30～13:15

会 場：神戸国際会議場メインホール

- 議 題：1. 理事長報告
2. 庶務報告
3. 会計報告
4. 出版・広報報告
5. プログラム編成報告
6. 各種委員会報告
① 将来計画委員会
② 国際対応委員会
③ 出版・広報委員会
④ 研究助成金等候補者選考委員会
⑤ シンポジウム企画委員会
⑥ 脳研究推進委員会
⑦ 連合大会委員会
⑧ 日本神経化学会活性化特別委員会
⑨ ダイバーシティ推進委員会（新設）
7. 2012年度奨励賞選考結果報告
8. 2011年度決算の件
9. 同監査報告
10. 2013年度予算の件
11. 評議員選任の件
12. 名誉会員推薦の件
13. 功労会員推薦の件
14. 次期大会の件
15. その他

3. 各種委員会

●ダイバーシティ推進委員会

日 時：9月29日（土） 9:30～11:00
会 場：神戸国際会議場4階405会議室

●シンポジウム企画委員会

日 時：9月30日（日） 9:00～10:00
会 場：神戸国際会議場4階405会議室

●奨励賞選考委員会

日 時：9月30日（日） 13:00～15:00
会 場：神戸国際会議場4階406会議室

●将来計画委員会

日 時：9月30日（日） 15:00～17:00
会 場：神戸国際会議場4階405会議室

●研究助成金等候補者選考委員会

日 時：10月1日（月） 9:30～11:30
会 場：神戸国際会議場4階405会議室

●出版・広報委員会

日 時：10月1日（月） 13:30～14:30
会 場：神戸国際会議場4階406会議室

●国際対応委員会

日 時：10月1日（月） 14:00～16:00
会 場：神戸国際会議場4階405会議室

4. 最優秀奨励賞受賞者講演

日 時：9月30日（日） 11時30分～12時00分
会 場：神戸国際会議場メインホール
座 長：馬場広子（奨励賞選考委員会委員長／東京薬科大学 教授）

理事会議事録

日本神経化学学会 2012年度第1回理事会議事録

日 時：2012年3月19日（月） 13:00-17:00
会 場：(財)国際医学情報センター第2会議室

出席：井上和秀(理事長)、池中一裕(副理事長)、木山博資(庶務担当理事)、島田昌一(会計担当理事)、
仲嶋一範(出版・広報担当理事)、石崎泰樹、熊倉鴻之助、佐藤真、遠山正彌、柳澤勝彦、
米田幸雄、和中明生、加藤忠史、馬場広子、和田圭司(以上 理事)、鍋島俊隆、野村靖幸(以上
監事)、
小泉修一(将来計画委員会委員長)、塩坂貞夫(第57回大会長)
委任状：白尾智明(国際対応委員会委員長)、岡野栄之(脳研究推進委員会委員長)、
高坂新一(連合大会委員会委員長)

議 題

【報告事項】

1. 2011年度第3回理事会議事録承認について

井上和秀理事長より、先般持ち回り審査を行い、承認が得られている旨報告された。

2. 理事長報告

井上和秀理事長より、前回理事会から本日までの学会の活動経過について報告された。持ち回り審議いただいた案件もあり、ご協力いただいた理事へ謝辞が述べられた。

3. 委員会委員の追加について 国際対応委員会

国際対応委員会の白尾智明委員長より、委員を増員したいとの申し出があり、大阪大学の金井好克氏が推薦された。井上和秀理事長より、持ち回り審議にて国際対応委員会の新規追加委員として金井好克氏が承認された旨報告された。

4. 庶務報告

木山博資庶務担当理事より、以下の通り報告された。

◆会員状況について

会員数動向について報告された。また、物故会員2名に対し黙祷が捧げられた。

◆除名について

年会費長期未納者（未納期間：2008年度～）が報告され、2011年12月31日付けで35名に対し、除名処理を行ったことが報告された。

◆評議員の退会希望について

退会を希望している2名の評議員について、度重なる慰留にも関わらず退会の意思が固いため、退会処理を行なった。

◆生物科学学会連合 第2・3回定例会議について

生物科学学会連合の概要と現在の活動状況について報告された。

◆倉庫について

現在の倉庫保管状況について次のとおり報告された。

- ・機関誌各1冊は事務局内キャビネット内に保管
- ・機関誌各1冊をPDF用に保管(2箱)
- ・機関誌各1冊を国立国会図書館に納本
- ・機関誌各1～2冊及び事務書類関係はIMICの新倉庫に保管(6箱)

PDF用に保管している2箱については、PDF化することが既に理事会で了承されているが、方法について審議事項であらためて議論する。

5. 会計報告

島田昌一会計担当理事より、会計報告がなされた。

◆2011年度決算及び税務申告について

2011年度決算等について、以下の通り報告された。

- ・2011年度決算について
2011年度決算が報告された。また、第54回大会の収支決算が良好であったことについて米田幸雄大会長に謝意が述べられた。

- ・税務申告について
税務申告について法人税等計70,000円を申告済みである旨報告された。

◆年会費未納者数について

年会費未納者数について報告された。年会費未納者には引き続き連絡をお願いしたい。

なお、学生会員から正会員への切替方法や、学生会費の値下げについて議論された。本件は、事務局にて他学会の学生会員の会費及び扱い等を調査した結果をもとに執行部でさらに議論し、後日あらためて報告することで了承された。

6. 出版・広報報告

井上和秀理事長より、議題第8項の委員会報告にて報告される旨説明された。

7. 委員会報告

(1)将来計画委員会

小泉修一委員長より、過去4回の若手研究者育成セミナーの解析について以下の通り報告された。

- ・若手研究者育成セミナーは、日本神経化学学会への入会のきっかけとなっている。
- ・過去4回開催されてきたが、リピーターは少ないためマンネリ化しない工夫が必要である。
- ・若手育成セミナー受講をきっかけに入会した会員の退会率は、他の若歴会員と比べて低い。
- ・若手が日本神経化学学会を知り、定着してくれる入り口として、若手育成セミナーは重要な役割を果たしている可能性が高いことがわかった。

若手育成セミナーに参加した学生へは参加証を発行している。参加証は学生にとって実利的なメリットになることを、今後は公募の際に明記していくとよい。また、実際に参加された方のユーザーレビューをHPに掲載してはどうかとの意見等があった。

(2)出版・広報委員会

仲嶋一範委員長より活動について以下の通り報告された。

◆E-mail配信告知状況について

E-mail配信及び会員検索システムでの情報開示について、同意状況が報告された。前回理事会で指摘のあった、同意に関する調査に回答していない会員は減らすことができた。『E-mail配信』と『会員検索システム』の未回答をなくすため、入会申込書内の同意不同意のチェックBOXを『個人情報情報の取扱いについて』の文面に変更することや、雑誌に『個人情報情報の取扱いについて』の文面を同封するなどの方法で会員に周知することで、未回答者は0人となる。本件については、審議事項で議論することになった。

◆学会ホームページ (HP) のサーバーについて

日本神経化学学会HPで使用している国立情報学研究所のサーバーが、2012年3月31日をもって終了となるため、委員会にて「日本神経化学学会ホームページ」と「会員情報検索システム」の新しいサーバーに関しての検討を行なってきた。理事会持ち回り審議にて、(株)エデュケーションデザインラボ(EDL)を選定し、学会HPを置くとともに、理化学研究所BSI技術系職員の西部氏に構築いただいている新会員情報検索システムを活用することが承認された旨報告された。

◆新会員情報検索システムについて

XOOPSを使用して理化学研究所BSI技術系職員の西部氏に構築いただいている。2012年4月からの新学会HPスタートには間に合わないが、夏頃までのシステムスタートを目指している。4月からの新学会HPには、現在の会員情報検索システムのリンクを貼るか、準備中として閉鎖するか、委員会で検討する。また、西部氏は非会員であり、ボランティアで本システム構築に携わってくださっているため、システム構築完了後に学会から感謝状を贈ることとなった。

◆機関誌「神経化学」投稿規定<著作権、著作権含む>について

・刊行頻度について
第55回日本神経化学学会大会はアジアパシフィック神経化学学会(APSNN)との合同大会のため、J.Neurochemistry誌に抄録が掲載される。よって経費削減のため「神経化学」誌の大会号については抄録を掲載せず、通常2/3号であるところを本年は2号単独号として発行し、年間3回のみの発行とすることの可否について調査したところ、刊行頻度の変更は問題がないことがわかった(国立国会図書館収集書誌部に確認済)。ただし、タイトルとCD-ROMに切り替わる場合は、再度ISSNの登録が必要である。また、第4種郵便は号数が減っても維持できる。

・著作権について

柳杏林舎と契約をしている49巻1号～現在は、出版著作権(著作権)は日本神経化学学会にあることが明確に契約書に記載されている。シーワークスと契約をしていた時代も同様な契約であった。その以前については契約書がないため確認できない。
ただし、少なくとも柳澤勝彦氏が出版・広報委員会の委員長を勤められていた時期(2003年～2007年)以降は、「神経化学」の1号と4号の原稿執筆依頼の際に、「本誌は日本神経化学学会が独自の著作権をもつ」ことを明示した「注意書き」をつけているので、これをもって「著作権が学会にある」ことを著者が認識したとみなすことができると思われる。しかし、大会号や「注意書き」を付していなかったものについてはグレーゾーンとなり、著作権は個人(著者)にあると考えられる可能性もある。

そこで、日本神経化学学会の投稿規程を整備し、十分に同規定の周知をすることでこれらの問題を解決する必要がある。また、同規定を十分な期間周知したのちであれば、PDF化した論文をHP上で公開することについても問題ないと思われる。

については、日本神経化学学会で作成した同規定について周知を行い、総会でも報告することが確認された。同規定（案）については、理事から修正意見を集めた上で最終版とすることになった。

(3)シンポジウム企画委員会

・委員会申し合せ事項について

和田圭司委員長より、委員会申し合せ事項（案）について説明され、異議なく承認された。

第56回大会（2013年度、日本神経科学学会との合同大会（Neuro大会））は6月に開催されるため、例年より3ヶ月前倒しで企画を進めていかなければならない。本件については、第56回大会の木山博資大会長より、シンポジウム企画委員会へタイムスケジュールを伝えることとなった。

・2012年日本神経化学学会公開シンポジウムについて

2012年の日本神経化学学会公開シンポジウムは、「構造生物学から創薬まで：G蛋白質共役型受容体研究がもたらすパラダイムシフト」と題し、斎藤祐見子氏、谷内一彦氏にオーガナイザーをお務めいただくことが承認された。

日本神経化学学会のスタンディングポイントは病態の分子的理解であって、それに寄与する新しいパラダイムシフトと成りえるすばらしい発表を集めている。シンポジウムの冒頭にてオーガナイザーにタイトルの趣旨を説明していただくことをルール化することや、HPで周知すべきであるとの意見があった。

(4)国際対応委員会

白尾智明委員長欠席のため、井上和秀理事長より、特段の報告事項はなく前回の理事会の報告を引き継いでいる旨報告された。

(5)研究助成金等候補者選考委員会

石崎泰樹委員長より2011年9月～2012年3月の学会推薦公募案件について報告された。

公募案件は5件あった。そのうち財団法人山田科学振興財団の2012年度研究援助については、4件の応募があり、委員会にて審議の上、2件を推薦することとなった。

(6)脳研究推進委員会

岡野栄之委員長欠席のため、佐藤真理事より前回委員会について報告された。

委員会では文部科学省、科学技術振興機構（JST）、厚生労働省がサポートする脳科学関連領域についての情報・意見交換を行っている。今後は科学技術振興機構（JST）のCRESTやさきがけ研究で取り組むテーマについて、日本神経化学学会として積極的に提案していくべきであるとして、具体的な提案内容を検討している。

(7)奨励賞選考委員会

馬場広子委員長より、以下の通り報告された。

◆内規の改訂について

持ち回り審議にて、内規の改訂（提出書類について、「選考に関連する主要論文の別刷を提出の」と（3編を8部ずつ））としていたのを「～（3編以内を8部ずつ）」と改訂が承認された旨報告された。改訂理由は、奨励賞本来の趣旨に則り優秀な若手（30歳代前半）の応募を促すには、必ずしも3編以上の主要論文がなくとも、質の高い論文を1編であっても出していけば良いのではないかとの意見があったためである。

◆2012年度奨励賞・最優秀奨励賞選考

2012年度の「日本神経化学学会奨励賞募集のお知らせ」について報告された。最優秀奨励賞と奨励賞の関係性が不明瞭であることが問題となったため、タイトルから「最優秀奨励賞候補者」の文言をなくし、奨励賞候補者として一括募集とした。

奨励賞自体は、30歳代前半の若手に対して贈るべきであり、現行のような「最優秀奨励賞は研究業績が顕著な人（なおかつすでにある程度establishされた人）」、「奨励賞は若手で将来性がある人」といった分け方は申請者にとって違いがわかりにくい。

本学会にはいわゆる「学会賞」のようなものがないため、現行の「最優秀奨励賞」に換えて「学会賞」のような新しい賞を設け、奨励賞の対象年齢を引き下げてはどうか、または年齢だけではなく研究暦も加味し選考基準を分ける等の意見があった。本件については、委員会からの要望書として、後日理事長に提出する。

(8)連合大会委員会

井上和秀理事長より、審議事項第4項脳科学関連学会連合（仮称）の設立の件で報告する旨説明された。

(9)員会

遠山正彌委員長より以下のとおり報告された。

日本神経化学学会の特徴をどのように活かしていくべきか委員会で議論している。大切なことは、横との繋がりと進出発掘である。臨床が中心となれるようなセッションを設けることで、臨床サイドからの参加を促進できる。また、進出発掘してきたことを関連機関等とマッチングさせるような機会をつくることができるのではないかと考える。進出発掘とマッチングと病気から創薬へといったような気の長い取り組みをしていくことで賛助会員の増員にも繋がるであろうし、学生が卒業しても神経系へ就職をすることがあれば日本神経化学学会に残るであろう。また、若手を育成するといことは非常に大切であるため、日本神経化学学会の特徴である若手育成セミナーを十分に活かしていけばよいのではないかと考える。

井上和秀理事長より、審議事項となる評議員の増員についても、日本神経化学学会活性化特別委員会のご助力を得て新評議員の方々の新しい活動にも力を入れてもらいたい旨説明された。

8. 第54回大会(2011年度)について

米田幸雄大会長より第54回大会(2011年度)について、挨拶と謝辞が述べられた。

参加者数は国内460名、国外28名（アメリカ、イギリス、ロシア、韓国等、合計8カ国）の計488名で、演題は計266演題となった。

また、大会会計報告とともに、日本神経化学学会の会計年度が1月1日から12月31日であるため、大会が9月に終了し年度内に会計を締めることが非常に苦労した経緯があったことも併せて報告された。については、今後は会計年度期間をずらしてはどうかとの提案があったが、様々な問題点があるため、本件については事務局で問題点について調べ、後日理事長に報告することとなった。

9. 第55回大会(2012年度)について

池中一裕大会長より、大会プログラムについて報告された。APSN/JSN-JSBP Joint Symposiumの言語を英語又は日本語どちらにすべきか議論され、例年通り英語にすべきであるとの意見で一致した。

また、大会参加費について議論されたが、最終判断は大会長に一任することとした。

10. その他

特になし。

【審議事項】

1. 新評議員の推薦候補者について

井上和秀理事長より報告され、審議の結果、計52名の候補者について総会への推薦が承認された。評議員増員も評議員全体の高齢化が懸念されるとの意見があった。今後は、将来計画委員会にて若い年齢でも評議員に就任できる道を考えていただきたいとした。

なお、井上和秀理事長より、この度の評議員増員に伴い、会則の評議員定員数については既に「50名乃至250名」より「50名乃至300名」へ改訂が持ち回り審議にて承認されている旨説明された。

2. 名誉会員の推薦候補者について

木山博資庶務担当理事より、年齢、貢献度等を踏まえ、候補者として三木直正氏が推薦され、審議の結果、総会への推薦が承認された。
なお、70歳以上の評議員については、功労会員としてお声がけをすることとなった。

3. 会則改訂案（評議員）について

井上和秀理事長及び木山博資庶務担当理事より、先般持ち回り審議を行い、承認が得られている旨報告された。（審議事項第1項参照）

4. 脳科学関連学会連合（仮称）の設立について

井上和秀理事長より、以下の通り報告された。

- ◆事前にご連絡している通り、日本神経科学学会からの「脳科学関連学会連合（仮称）」発足主旨については、当会としてはこれを緩やかな連合とし、次世代を担う若手研究者にとりたくさんの学会が乱立している中では情報や交流が散漫になってしまう恐れがあるためこの様な連合体を作り、今後の発展の場となればと主旨の一部に賛同することとした。
- ◆但し、それは一部条件付きとし、上記学会より提出された運営規約の第6条、10条、11条等について、平成24年3月14日付メールにて上記学会会長宮下保司先生へ意見を申し入れた。その後、先方より当会からの申し入れが受け入れられた改定案が送付されてきたが、この改定案に対し当会にて再考のうえさらに意見のある場合は平成24年4月27日までに申し入れることとなった。
- ◆「脳科学関連学会連合（仮称）」発足について、研究者の立場や研究環境の改善を望む、または政府等へ意見を提案する連合としたいという趣旨もあるようだ。

また、以下の意見が出され、活発な議論がなされた。

- ◆本連合へ加入すべき他学会があれば、当会より推薦すべきである。
- ◆運営規約（案）第12条について、4行目最後より「～などの脳科学研究コミュニティの組織によって構成する」という文面からの“組織”の定義は曖昧ではないか。
- ◆同上条1行目から挙げられている「文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究」、「脳科学研究戦略推進プログラム」そして「戦略的創造研究推進事業」は、同規約第4条記載事項に当てはまるのか、再考すべきである。
- ◆この会への拘束力はどの程度あるのか。同規約第13条記載の脱退については「～過半数の評議員の賛同が確認された場合に承認される」とあるが、脱退については自由とすべきである。
- ◆同規約第9条について、学会の規模により評議員の人数を変えるのは不平等ではないか。規模に関係なく各学会から2名とすべきである。
- ◆同規約第12条記載の委員会の委員構成は、実際どのような内容になり、どのくらいの規模になるの

か。構成メンバーによっては偏った委員会になってしまう恐れがある。それを防ぐために、同条2行目からの「文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究、脳科学研究戦略推進プログラム、戦略的創造研究推進事業」については短期間的なプログラムと捉えられるため外し、同条4行名に記載のある「～など～」の代わりに「連合を構成する組織から推薦をする」としてはどうか。または、具体名を全て消してはどうかとの意見があった。

以上の議論を踏まえ、4月27日までに先方へ再度申し入れる前に、内容を理事会執行部にて確認することとなった。また、他にも意見等があった場合は4月27日までに、井上和秀理事長へ直接メール等にて申し入れることとなった。

5. 法人化について

木山博資庶務担当理事より報告された。生物科学学会連合から学会の法人化についてのアンケートがあり、すでに法人化している学会が2学会、法人化を申請中の学会が5学会、法人化を検討している学会が9学会、法人化を全くするつもりのない学会が5学会とのことである。公益法人格となると、寄付等を受けた際に税制措置があり、また大会等運営の際に優遇される等のメリットはあるが、当会については法人化をするに際し特段のメリットを見出せないため、当面は法人化しないことで了承された。

6. 男女参画分科会アンケートの件について

木山博資庶務担当理事より、以下の通り報告があり、承認された。
内閣府より女性参画についてアンケートがあり、また社会的にもその動向が注目されているため、当会においても男女参画分科会委員会設置する必要がある。その委員長として、現在その準備委員会の委員長を務めている馬場広子理事が推薦された。
なお、馬場広子委員長には、奨励賞選考委員会委員長と兼務していただくことで了承された。

7. 第56回（2013年度）大会について

木山博資大会長より第56回（2013年）大会について、以下の通り報告された。

- ◆第56回（2013年度）大会でのプレナリー4名が決定した。
- ◆例年大会は秋に開催されるが、本大会は例年より早い2013年6月20日（木）～23日（日）に開催されるため、シンポジウム等大会向け企画立案を早めに進めていきたい、当会の協力をお願いしたい。

8. 第57回（2014年度）大会について

塩坂貞夫大会長より第57回（2014年度）大会について、以下の通り報告された。

日程と場所については2014年9月29日（月）～10月1日（水）奈良県公会堂（500名収容）と東大寺総合文化センター（300名収容）を仮予約している。
なお、日本神経科学学会の大会が9月9日～11日開催を予定しており、また10月以降観光シーズンとなり宿泊料金等の値段が上がるため、この期間の開催予定となった。

9. COIについて

米田幸雄理事より「利益相反（Conflict of Interest）」について、以下の通り説明及び報告された。

前回理事会にて課題となったCOIについて、他学会のCOIに関する書類を例に挙げ、COIとは個人・団体において関係を有する企業または特許等の間に利益が相反しないよう明示させる旨説明した。また、以下の意見が出され、活発な議論がされた。

- ◆COIについては、あくまで自己申告・自己判断となるので、自身にその責を任せるしかない。
- ◆企業依頼の講演や投稿・執筆等を行った場合、本年度より企業側からも申告がなされるため、その照合性を取るためにも行っておいの方がよい。
- ◆本来であれば各研究者は、所属先・機関にて行うべきである。ただし、他学会では、各研究者の演題についてのみ対応しているところもある。

以上の意見を踏まえ、以下の通り審議された。

日本神経化学学会としては、最低限のCOIの規定はおさえるべきである。しかしながら、この問題は重要事項であるためもう少し時間をかけ、次回理事会にても引き続き審議することとする。
また次回理事会までに、事務局は他学会のCOIの取り扱いについて調査分析し、木山博資庶務担当理事へ報告する。

10. 年会費未納者への雑誌送付年数の検討について

島田昌一會計担当理事より、以下の通り報告された。
年会費未納者に対し、現状のとおり未納にもかかわらず除名になるまで雑誌を送付し続けるべきか、もしくは1年未納者、2年未納者、3年未納者のいずれかから送付を止めてはどうか議論された。
未納者に対し年会費未納だからと雑誌を送らなければ、年会費未納であることもそのまま失念されてしまふかもしれないが、雑誌を送り続けることによりそれと共に年会費が未納であること知らせる手段になると思われるので、たとえ年会費未納であっても雑誌を送り続けることは無駄ではない。
以上の意見を踏まえ、年会費未納者に対しても雑誌を送ることとなった。

11. 雑誌のPDF化について

木山博資庶務担当理事より、以下の通り報告がなされた。
報告事項第4項「倉庫について」にて報告した通り、機関紙をPDF化し記録を残すことを検討しているが、業者に見積りを依頼したところ300~400万円程度の費用が発生することがわかった。このため、費用を低く抑えるようアルバイトを雇用して行うか安い業者を探すことを検討している。当案件については木山博資庶務担当理事に一任することが承認された。

12. 新入会申込書について

木山博資庶務担当理事、そして仲嶋一範出版・広報担当理事より、新入会申込書における変更について以下の通り報告された。

- ◆「個人情報の取扱いについて」の追加について
多くの学会からE-mail配信によりさまざまな情報が当然のように送られてくる現状を鑑み、現在の入会申込書上の「『E-mail配信』と『会員検索システム』の同意不同意の有無」の項目の代わりに『個人情報の取扱いについて』という項目を記載し、日本神経化学学会へ入会した際の個人情報の取り扱いについて留意を促すこととする。既会員についても同じ文面を送付し、対応する予定である。
なお、報告事項第8項「学会ホームページ（HP）のサーバーについて」にて既出の西部氏に構築いただいている新会員検索システムでは、登録情報の「公開・非公開」を項目ごとに会員が選択できるよう準備を進めている。
以上の報告に対し、審議が行われ、異議無く承認された。

- ◆入会申込書（案）上、「推薦者の印の有無を検討」について。
「推薦者の印」欄の有無について議論された。この欄をなくした方が気軽に入会できるのではないかと考えられるが、不審者の入会が懸念される。今後は、入会申込書の推薦欄に推薦者の連絡先を明記

し、事務局より、入会申込みを受け付けた際に推薦者へすぐに確認を取ることとなった。また、推薦者の印または署名がない入会申込書も受け付けることができる。適任推薦者のみつからない入会希望者に対しては事務局より推薦者を紹介する。HP上でも「入会時お困りの際は事務局へご相談ください」というような文言を掲載するという事で意見がまとまった。

なお、当審議案件とは異なるが関連し、以下のような意見があった。

- ◆入会時には、学生会員が学生であることを証明するために教授の署名（印）及び学生証明書が必要となるが、その後数年間にわたり学生会員のまま在籍し続け、実際には既に学生会員の資格の有無の不明な会員もいるのではないと思われる。
現在は入会後の学生会員に対しては身分の確認を行っていないため、今後、会員から正当な会費を集金するためにも、事務局にて入会後の学生会員の身分を確認する方法を模索すべきである。

13. 学会ホームページ（HP）について

仲嶋一範出版・広報担当理事より以下の報告があり、審議が行われた。

- ◆国立情報学研究所のホスティングサービスが終了するため、新しくドメインを取得したことが報告され、承認された。（新ドメイン：<http://www.neurochemistry.jp/>）。
- ◆作成中の新しい学会HPが供覧された。フレーム及びバックカラーを季節に応じて3色入れ替える仕様にするなどの概要が説明され、審議の結果、承認された。
- ◆インタラクティブコンテンツとして「Facebook」、「Twitter」等の導入の検討をしてはどうかとの提案がされ、審議された。その結果、これらは情報の即効性や波及性はあるが、当会と関係のないところで悪用される恐れもあるため、現時点では導入は行わないことになった。
- ◆当学会の活動に関連している企業等のバナー広告をHP上に掲載し、掲載料を徴収してはどうかとの提案がなされ、審議の結果、承認された。掲載料については、他の学会の現状を参考に決定することになった。また、広告主の選定については、執行部に一任された。
- ◆HP上にサイトポリシーを掲載すべきであるとの意見が出され、審議の結果、承認された。
- ◆当会のロゴマークを商標登録すべきであるとの意見が出された。

14. その他

- ◆事務局担当者交代の挨拶をした（宮木→佐藤）。

以上を以て予定した全ての議事を終了し、本年度第1回理事会を閉じた。



第36回日本神経科学大会 第56回日本神経化学学会大会 第23回日本神経回路学会大会 合同大会
第11回世界生物学的精神医学会/ The 11th World Federation of Societies of
Biological Psychiatry (WFSBP) 6月23日-27日(同会場)との連携開催

会期 2013年6月20日(木)~23日(日) 会場 国立京都国際会館

大会長 第36回日本神経科学大会 加藤 忠史(理化学研究所脳科学総合研究センター)
第56回日本神経化学学会大会 木山 博資(名古屋大学大学院医学系研究科)
第23回日本神経回路学会大会 五味 裕章(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

プログラム概要(予定)

I. プレナリーレクチャー(予定) ※アルファベット順

Prof. Fred Gage
Laboratory of Genetics, Salk Institute

Prof. Maiken Nedergaard
University of Rochester Medical Center

Prof. Miguel Nicolelis
Duke University Medical Center

Prof. Thomas C. Südhof
Stanford University School of Medicine; Howard Hughes Medical Institute

II. シンポジウム

各学会企画シンポジウム
プログラム委員会企画シンポジウム
公募シンポジウム
日本生物学的精神医学会との共催レクチャー
World Federation of Societies of Biological Psychiatry (WFSBP) との共催シンポジウム

III. 受賞講演

塚原賞受賞講演(日本神経科学学会)
時実賞受賞講演(日本神経科学学会)
日本神経化学学会最優秀奨励賞受賞講演(日本神経化学学会)

IV. 一般口演・ポスター発表

募集開始: 2012年11月1日(木) (予定)
募集締切: 2013年1月中旬(予定)

V. 共催セミナー 募集中

VI. 機器・書籍展示 募集中

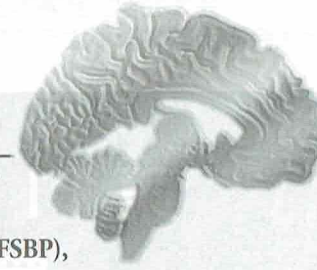
VII. サテライトシンポジウム

トラベルアワード実施

大会事務局

Neuro2013 大会事務局

株式会社コングレ内 〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル Tel: 03-5216-5318 / Fax: 03-5216-5552



Joint Conference of The 36th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, The 56th Annual Meeting of
Japanese Society for Neurochemistry and The 23rd Annual Meeting of Japanese Neural Network Society
Neuro2013 will be cooperatively held with the 11th World Federation of Societies of Biological Psychiatry (WFSBP),
June 23rd - 27th, 2013 (ICC Kyoto)

Date June 20th, Thu. 2013 - June 23rd, Sun., 2013

Venue Kyoto International Conference Center (ICC Kyoto), Japan

Chairpersons The 36th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
Tadafumi Kato, M.D., Ph.D., RIKEN Brain Science Institute
The 56th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry
Hiroshi Kiyama, Ph.D., Graduate School of Medicine, Nagoya University
The 23rd Annual Conference of the Japanese Neural Network Society
Hiroaki Gomi, Ph.D., NTT Communication Science Laboratories

Program (Tentative)

I. Plenary Lectures *In Alphabetical Order

Prof. Fred H. Gage
Laboratory of Genetics, Salk Institute

Prof. Maiken Nedergaard
University of Rochester Medical Center

Prof. Miguel A.L. Nicolelis
Duke University Medical Center

Prof. Thomas C. Südhof
Stanford University School of Medicine; Howard Hughes Medical Institute

II. Symposia

Symposia planned by the organizers.
Symposia planned by the program committee.
Call for Symposia: planned.
Symposium jointly held with the World Federation of Societies of Biological Psychiatry (WFSBP)
Seminar jointly held with the Japanese Society of Biological Psychiatry (JSBP)

III. Awarded Lectures

IV. Oral Presentations / Poster Sessions

Call for abstract: November 1st, 2012 to mid-January, 2013 (tentative)

V. Sponsored Seminars -Application available

VI. Equipment and Publications Exhibition-Application available

VII. Satellite Symposia

Travel Awards Available

Secretariat for Neuro 2013

c/o Congress Corporation

Kohsai-kaikan Bldg. 5-1, Kojimachi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8481 Tel: +81-3-5216-5318 / Fax: +81-3-5216-5552

第 11 回世界生物学的精神医学会国際会議 第 35 回日本生物学的精神医学会

国立京都国際会館
2013 年 6 月 23 日～ 27 日

第11回世界生物学的精神医学会国際会議（WFSBP2013KYOTO）と第35回日本生物学的精神医学会の合同大会が、2013年6月23日～27日に国立京都国際会館で開催されます。現在は隔年で開催されている同会議は、今回がアジアでは初めての開催となり、国内から2千名、国外からも2千名程度の参加が見込まれています。

WFSBP2013KYOTOはNeuro2013と連携して開催され、6月20日からの8日間はニューロサイエンスに関わる基礎と臨床の専門家が多数集う大規模な機会となりますので、奮ってご参加いただければ幸いです。

また、日本生物学的精神医学会の会員は参加費の優遇を受けることができます。現在、本学会では新規入会の増強キャンペーンを実施しており、2013年度までは年会費初年度無料といったオプションも設定されていますので、併せてこの機会に、ぜひ、ご入会もご検討下さい。

第11回世界生物学的精神医学会国際会議
組織委員長 武田雅俊
大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室教授

コンGRESのURL：
<http://www.wfsbp-congress.org/>

日本生物学的精神医学会のURL（入会はこちら）：
<http://www.jsbp.org/>

運営に関するお問合せ：
wfsbp2013@cpo-hanser.de

学会掲示板

【助成・褒章案内】

公益財団法人 東レ科学振興会
第 53 回（平成 24 年度）東レ科学技術賞候補者推薦要領

候補者の対象：日本神経化学学会が関与する分野で、下記のいずれかに該当する方
(1)学術上の業績が顕著な方
(2)学術上重要な発見をした方
(3)効果が大きい重要な発明をした方
(4)技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献した方年齢は問いません。

科学技術賞：1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円（2件以内）

推薦者：東レ科学振興会指定学協会の代表者及び東レ科学振興会指定推薦委員（非公開）

候補者推薦件数：1学協会から2件以内および1推薦委員から1件以内

推薦手続：所定の推薦書用紙に選考に必要な事項を正確に記載し、東レ科学振興会宛て1部ご送付願います。
日本神経化学学会の推薦をご希望の方は、日本神経化学学会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会にて選考の上、推薦候補者を決定致します。

推薦用紙等詳細はこちら>>http://www.toray.co.jp/tsf/info/inf_003.html

推薦締切期日：平成24年10月10日（水）必着
日本神経化学学会の推薦をご希望の方は平成24年9月12日（水）必着

選考方法：下記委員からなる選考委員会において選考し、東レ科学振興会理事会で受賞者を決定します。

選考委員 榊 裕之（委員長）、湯浅 誠、玉尾 皓平、永宮 正治、
前川 禎通、山本 雅、岡崎 健、村上 正紀、山本 正幸
選考結果は平成25年2月下旬に推薦者に通知します。

科学技術賞の贈呈：平成25年3月の予定

（注） a. 推薦を受けた候補者は、その年度および次の年度にわたって選考の対象としております。
したがって平成23年度に推薦された候補者については、平成24年度候補者として再度推薦の必要はありません。ただし平成23年度の推薦以降において、追加すべき顕著な業績または発表や受賞があり加筆が必要な場合は、再提出いただいても結構です。
b. 受賞者は、原則として1件1人とします。特に複数人であることを必要とするときは理由を明確にして下さい。

- c. この科学技術賞は、所得税法（第9条第1項第13号ニ）の規定により非課税となっております。
d. 推薦書の用紙は、下記東レ科学振興会ホームページからダウンロードできます。

東レ科学振興会>><http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

賞に関するお問合せ先：公益財団法人東レ科学振興会

〒279-8555 千葉県浦安市美浜一丁目8番1号(東レビル)

TEL(047)350-6103 FAX(047)350-6082

公益財団法人 東レ科学振興会

第 53 回（平成 24 年度）東レ科学技術研究助成候補者推薦要領

候補者の対象：日本神経化学会が関与する分野で国内の研究機関において、自らのアイディアで萌芽研究に従事しており、かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）。本助成が重要な研究費と位置づけられ、これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件。
従来の研究の多くが海外で行われていても差し支えありません。

研究助成金：総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度とします。

推薦者：東レ科学振興会指定学協会の代表者及び東レ科学振興会推薦委員（非公開）

候補者推薦件数：1学協会から2件以内および1推薦委員から1件以内

推薦手続：所定の推薦書用紙に選考に必要な事項を正確に記載し、東レ科学振興会あて1部ご送付願います。

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、日本神経化学会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会では選考の上、推薦候補者を決定致します。

推薦用紙等詳細はこちら>> http://www.toray.co.jp/tsf/info/inf_004.html

推薦締切期日：平成24年10月10日（水）必着

日本神経化学会の推薦をご希望の方は 平成24年9月12日（水）必着

選考方法：下記委員からなる選考委員会において、提出された書類により一次選考を行ったのち面接による二次選考を経て、東レ科学振興会理事会で決定します。

なお、二次選考は平成24年12月下旬に行います。

選考委員 榊 裕之（委員長）、湯浅 誠、玉尾 皓平、永宮 正治、

前川 禎通、山本 雅、岡崎 健、村上 正紀、山本 正幸

選考結果は平成25年2月下旬に推薦者（学協会の代表者および東レ科学振興会の推薦委員）に通知します。

研究助成金の贈呈式：平成25年3月の予定

- （注） a. 東レ科学振興会の選考では、専門分野の異なる選考委員全員が関与します。推薦書の内容は、他分野の研究者にもわかりやすい表現をご使用下さい。
b. この研究助成金は、研究目的を達成するために有効に使用されるものであれば、どのような使途で申請されても結構です。ただし、原則として間接経費、管理経費、共通経費は助成の対象になりません。

また、助成金受領決定後、その使途を変更される場合は、事前に東レ科学振興会の承諾を得て下さい。

助成研究の期間は、特別の事情がない限り助成金受領決定の次年度から3年以内とします。

- c. 助成金の受領者は、研究終了時まで毎年「助成研究年次報告書」を、また研究終了時に、「助成研究終了報告書」を提出していただきます。

- e. この助成金は、所得税法（第9条第1項第13号ニ）の規定により非課税となっています。

- d. 推薦書の用紙は、下記東レ科学振興会ホームページからダウンロードできます。

東レ科学振興会>><http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

賞に関するお問合せ先：公益財団法人東レ科学振興会

〒279-8555 千葉県浦安市美浜一丁目8番1号(東レビル)

TEL(047)350-6103 FAX(047)350-6082

公益財団法人 内藤記念科学振興財団

第 44 回（2012 年度）内藤記念科学振興賞候補者推薦要領

趣旨：人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的領域において、進歩発展に顕著な功績のあった研究者に対してほう賞を授与するものである。

- 候補資格：1) 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において、独創的テーマに取り組み、進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
2) 候補者は単独とするが、異なる研究グループによる共同研究の場合には、連名であっても良い。
3) 候補者の再度の推薦は差支えない。

推薦者：1) 下記27学会の代表者

高分子学会	日本獣医学会	日本農芸化学会
日本遺伝学会	日本植物生理学会	日本発生生物学会
日本ウイルス学会	日本神経科学学会	日本ビタミン学会
日本栄養・食糧学会	日本神経化学会	日本病理学会
日本解剖学会	日本生化学会	日本物理学会
日本化学会	日本生物工学会	日本分子生物学会
日本癌学会	日本生物物理学会	日本免疫学会
日本細菌学会	日本生理学会	日本薬学会
日本細胞生物学会	日本動物学会	日本薬理学会

- 2) 内藤記念科学振興財団の理事、監事および評議員

※推薦件数は、1推薦者につき1件

推薦方法：内藤記念科学振興財団ホームページ「助成金事業」に記載の順に従い推薦する。

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、当会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会では選考の上、推薦候補者を決定致します。

締切日：2012年10月1日（月）（内藤記念科学振興財団必着）

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、2011年9月10日（月）当会必着

選考方法：内藤記念科学振興財団選考委員会では審査し、理事会で決定する。

採否の結果は、2013年2月に候補者および推薦者に通知する。

授賞式・顕彰：受賞者夫妻は2013年3月19日（火）に行う贈呈式に出席いただきます。
受賞者には内藤記念科学振興賞（正賞：金メダル，副賞：1,000万円）を贈呈する。

その他：1) 学会推薦の場合は，学会の公印を捺印する。
2) 内藤記念科学振興財団の理事，監事又は評議員推薦の場合は，私印を捺印する。

お問合せ先：公益財団法人 内藤記念科学振興財団
〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目42番6号 NKDビル8階
TEL 03-3813-3005 FAX 03-3811-2917
URL <http://www.naito-for.jp/> E-mail joseikin@naito-for.jp

公益財団法人 内藤記念科学振興財団

第 44 回（2012 年度）内藤記念海外学者招へい助成金 申請要領

趣 旨：人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究を行う外国の研究者を招へいする際の費用を補助するものである。

候補者資格：1) 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究に独創的・先駆的に取り組み，国際的に高い評価を得ている外国の研究者を招へいする際の当該学術集会組織委員長（ただし内藤記念科学振興財団の理事・監事・評議員・選考委員は申請できない）
2) 同一年度の同一学術集会に招へいする場合の申請は1件とする。
3) 招へい時期が下記の期間内であること。

招へい時期	申請区分
2013年1月1日～2013年06月30日	前期
2013年7月1日～2013年12月31日	後期

4) 内藤記念科学振興財団の選考委員（HP参照 <http://www.naito-for.jp/>）と同一の教室（講座）に所属する者は申請することができない。

推薦者：※内藤記念科学振興財団HPのQ&A「推薦者の欄」を必ずご覧下さい。
1) 大学関係…①大学院：研究科長 ②学部：学部長 ③研究所：研究所長，①②③以外の大学組織（研究センター，研究施設等）：学長
ただし，同一専攻の研究科（大学院）と学部（大学）の両方からは申請できない。どちらか一方の推薦者とする。
注）センター長，施設長，病院長は推薦者となることができない。
2) 大学以外の研究機関…内藤記念科学振興財団の理事会が承認した基礎研究機関の代表責任者
3) 内藤記念科学振興財団の理事・監事及び評議員（参照⇒<http://www.naito-for.jp/>）
4) 内藤記念科学振興財団の指定した学会の代表者
※推薦件数は1推薦者につき1件（前期・後期 各1件）

申請方法：＜推薦者が上記1) 2) 4) の場合＞
申請者⇒大学・研究機関事務⇒内藤記念科学振興財団
＜推薦者が上記3) の場合＞
申請者⇒内藤記念科学振興財団理事・監事・評議員⇒内藤記念科学振興財団
※3) の場合のみ，内藤記念科学振興財団への申請書類の送付は，申請者，推薦者のどちらからでもよい。

内藤記念科学振興財団ホームページの「助成金事業」に記載の順に従い申請する。
日本神経化学会の推薦をご希望の方は，当会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会で選考の上，推薦候補者を決定致します。

締 切 日：＜前期＞2012年6月1日（金） ＜後期＞2012年10月1日（月）
※いずれも内藤記念科学振興財団必着
日本神経化学会の推薦をご希望の方は，＜前期＞2012年5月18日（金）
＜後期＞2012年9月10日（月）当会必着

選考方法・採択件数：＜選考方法＞内藤記念科学振興財団選考委員会で審査し，理事会で決定する。
＜採択件数＞前期・後期各10件以内（予算範囲内）
採択の結果は，前期：2012年10月，後期：2013年2月に申請者及び推薦者に通知する。

助成額・送金時期：

エリア	助成額（万円）
中東・アジア	80
米国・カナダ(西海岸除く)，ヨーロッパ	60
米国・カナダ西海岸，オーストラリア，ニュージーランド	50
東南アジア，インド	30
中国，台湾，韓国	20

前期：2012年12月，後期：2013年3月

注 意 事 項：1) 組織委員長及び招へい学者が明記されている書面（当該学術集会プログラム・サーキュラー等）を申請書と共に必ず提出する。
2) 来日の中止について：招へい学者が来日中止の場合は助成を辞退していただきますので，内藤記念科学振興財団事務局へ必ず連絡下さい。

報告の義務：1) スポンサーについて：当該学術集会で海外学者による招待講演が行われる場合は，プログラム等に内藤記念科学振興財団（英文：The Naito Foundation）の助成によるものであることを明記する。なお，プログラム等を一部送付する。

2) 学会成果報告書及び使途報告書について：組織委員長は招へい終了1ヶ月以内に所定用紙にて必ず報告する。

◎申請書記載内容に変更が生じた場合は，すみやかに内藤記念科学振興財団事務局にご連絡下さい。

◎申請書等詳細は，内藤記念科学振興財団ホームページ（<http://www.naito-for.jp/>）内「助成金事業」に掲載しております。

お問合せ先：公益財団法人 内藤記念科学振興財団
〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目42番6号 NKDビル8階
TEL 03-3813-3005 FAX 03-3811-2917
URL <http://www.naito-for.jp/> E-mail joseikin@naito-for.jp

公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団

第27回研究助成候補者応募要領

趣 旨：脳科学の広い分野における研究に対して助成を行います。特に、脳のメカニズムを解明する独創的な研究計画の助成に重点をおきます。研究分野は実験研究のみならず、理論、モデリング研究をも含みます。

研究助成額：助成額は1件100万円、助成件数は8～12件とします。

応募締切日：平成24年10月12日（金）とします。

応募方法：所定の応募用紙に必要事項を記入し、ブレインサイエンス振興財団に提出して下さい。（研究についての問い合わせ可能な所属長名を明記して下さい。）

応募用紙：応募用紙は下記のURLから表示、印刷できます。
※必ず片面印刷でご提出下さい（両面印刷はご遠慮下さい）。
研究助成候補者応募用紙>><http://www.bs-f.jp/kenjo.html#yoryo>

審査方法：ブレインサイエンス振興財団の選考委員会において審査選考し、理事会において決定します。
採否の通知：平成25年3月末日までに応募者宛て採否を通知します。

助成金の交付：平成25年6月末日までに助成決定者の指定口座に振り込みます。

助成金の使途：助成金は応募用紙記載の通り使用することを原則とします。なお、経理報告書を平成26年5月末日までに提出して下さい。

成果の報告：平成26年5月末日までに、研究成果報告書を提出して下さい。また、助成金による研究を専門誌に載せる場合には、「公益財団法人ブレインサイエンス振興財団（英文=Brain Science Foundation）の助成による」旨を書き添えて下さい。

推薦書提出先および連絡先：公益財団法人ブレインサイエンス振興財団
〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20
電話 (03)3273-2565 (直通)

公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団

海外派遣研究助成候補者応募要領

趣 旨：我が国におけるブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは短期間（6ヶ月以内）の共同研究のための研究者の海外派遣を助成します。但し、平成25年4月1日から平成26年3月1日の間に出発できるものに限りま

助成予定額：1件あたりの助成額は往復の航空運賃を主とし、30万円までを限度として必要額を若干件数助成します。

応募締切日：平成25年1月11日（金）とします。

応募方法：所定の応募用紙に必要事項を記入し、ブレインサイエンス振興財団に提出して下さい。
○学会、シンポジウム等の問い合わせ可能な所属長の名前を明記して下さい。
○受入先の承諾書を添付して下さい。
（学会、シンポジウム等参加の場合は参加証明書または招待状の写し。短期の共同研究の場合は受入機関または共同研究者の手紙の写し。）

応募用紙：応募用紙は下記のURLから表示、印刷できます。
※必ず片面印刷でご提出下さい（両面印刷はご遠慮下さい）。
海外派遣研究助成候補者応募用紙>>http://www.bs-f.jp/kokusai_haken.html#yoryo

審査方法：ブレインサイエンス振興財団の選考委員会において審査選考し、理事会において決定します。

採否の通知：平成25年3月末日までに応募者宛て採否を通知します。
助成金の交付：平成25年4月1日以降出発時期に応じて助成決定者の指定口座に振り込みます。
助成金の使途：助成金は応募用紙記載のとおり使用することを原則とします。

成果の報告：帰国後1ヶ月以内に、派遣の成果についての報告書及び派遣助成金の使途内訳を提出して下さい。

応募用紙提出先および連絡先：公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団
〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20
電話 (03)3273-2565 (直通)

公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団

第26回海外研究者招聘助成候補者申込要領

趣 旨：ブレインサイエンス研究分野において、独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の短期間（3ヶ月以内）の招聘を助成します。但し、平成24年4月1日から平成26年3月31日の間に招聘するものとします。
また、助成金は招聘する受入責任者に交付します。

招聘助成予定額：1件あたりの助成額は往復の航空運賃を主とし、30万円までを限度として必要額を若干件数助成します。

申込締切日：平成25年1月11日（金）とします。

申込方法：所定の申込書に必要事項を記入し、ブレインサイエンス振興財団に提出して下さい。
申込書は下記のURLから表示、印刷できます。
※必ず片面印刷でご提出下さい（両面印刷はご遠慮下さい）。
海外研究者招聘助成候補者申込書>>http://www.bs-f.jp/kokusai_syouhei.html#yoryo

審査方法：当財団の選考委員会において審査選考し、理事会において決定します。

採否の通知：平成25年3月末日までに申込者あて採否を通知します。

助成金の交付：平成25年4月1日から必要に応じて受入責任者あて指定口座に振り込みます。

助成金の使 途：助成金は申込書記載のとおり使用することを原則とします。

成 果 の 報 告：招聘後1ヶ月以内に、招聘の成果報告書及び招聘助成金の使途内訳を提出して下さい。

申込書提出先および連絡先：公益財団法人ブレインサイエンス振興財団
〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20
電話 (03)3273-2565 (直通)

女性科学者に明るい未来をの会
第 33 回 (2013 年) 猿橋賞

対 象：推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、「創立の主旨に沿った」優れた研究業績を収めている女性科学者

表 彰 内 容：賞状、副賞として賞金30万円、1件 (1名)

応 募 方 法：女性科学者に明るい未来をの会ホームページ <http://www.saruhashi.net/> から推薦書類をダウンロードし、A4用紙に印刷して①推薦者 (個人・団体、自薦も可)・受賞候補者の略歴・推薦対象となる研究題目②推薦理由(800字程度)、及び③研究題目に関連する主な業績リスト (指定は1 頁です。やむを得ない場合でも追加は1 頁までです) を記入して、主な論文別刷5編程度 (各2部、コピーも可) を添え、下記推薦書類送付先までお送り下さい。

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、日本神経化学会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会にて選考の上、推薦候補者を決定致します。

締 切 日：2011年11月30日 (金) 必着

日本神経化学会の推薦をご希望の方は2012年11月16日 (金) 必着

推薦書類送付先：〒270-1147千葉県我孫子市若松165-5 女性科学者に明るい未来をの会
※上記宛先は推薦書受付専用です。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却致しませんのでご了承下さい。

お 問 合 せ 先：女性科学者に明るい未来をの会事務局
E-mail saruhashi2011@saruhashi.net

今後、募集要項に変更がある場合は、女性科学者に明るい未来をの会ホームページに掲載致しますので、応募の際は同ホームページをご確認下さい。

【セミナー・講習会】

財団法人千里ライフサイエンス振興財団セミナー
「糖質メディエーターと疾患」

日 時：平成24年11月15日 (木) 10：00～17：00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール
(地下鉄千里中央駅前北出口すぐ)
(大阪モノレール「千里中央」駅より徒歩5分)

趣 旨：歴史上最も多く用いられた薬剤であるアスピリンはシクロオキシゲナーゼを阻害し、プロスタグランジン産生を抑制することで強力な消炎鎮痛作用を発揮する。プロスタグランジンに代表される脂質メディエーターの産生酵素・受容体の多くは国内の研究者によって分子同定され、また、遺伝子欠損マウスなどの解析結果から、新規創薬の候補として大いに期待されている。一方で、遺伝子に直接コードされない脂質の解析にはこれまで多くの困難がつきまどってきた。本セミナーでは世界をリードする脂質メディエーター研究者の最新の知見を紹介し、創薬応用への可能性を検証する。さらに、脂質の解析において近年めざましい進化を遂げつつある質量分析計を用いた新しい解析法と将来の可能性についても討論したい。

コーディネーター：順天堂大学大学院医学研究科 生化学・細胞機能制御学教授 横溝 岳彦
京都大学大学院医学研究科 皮膚科学准教授 梶島 健治

プ ロ グ ラ ム：

10:00 - 10:15 はじめに
順天堂大学大学院 医学研究科 生化学・細胞機能制御学 教授 横溝 岳彦

10:15 - 11:05 リン脂質代謝と疾患リピドミクス
東京大学大学院 医学系研究科 特任教授 清水 孝雄

11:05 - 11:55 細胞外リン脂質環境を制御するsPLA2分子群のバイオロジー
公益財団法人 東京都医学総合研究所 脂質代謝プロジェクト プロジェクトリーダー 村上 誠

11:55 - 13:10 昼食

13:10 - 14:00 プロスタグランジンと慢性炎症
京都大学大学院 医学研究科 神経・細胞薬理学 教授 成宮 周

14:00 - 14:50 病態時の脈管新生を制御する脂質メディエーターの役割
北里大学大学院 医療系研究科 分子薬理学 教授 馬嶋 正隆

15:10 - 16:00 ロイコトリエン受容体と新規生理活性脂質12-HHT
順天堂大学大学院 医学研究科 生化学・細胞機能制御学 教授 横溝 岳彦

16:00 - 16:50 脂質を「見る」質量顕微鏡の進歩

浜松医科大学 解剖学講座 細胞生物学分野 教授 瀬藤 光利

16:50 - 17:00 おわりに 京都大学大学院 医学研究科 皮膚科学 准教授 梶島 健治

定 員：200名（お申込順：定員になり次第，締め切らせて頂きます。）

参 加 費：無料（要事前申込）

お 申 込 方 法：以下の要領にてお申込み下さい。

①氏名、勤務先、所属、役職名、〒、所在地、電話、FAX番号、お弁当の有無を明記の上、E-mail で (dsp@senri-life.or.jp宛) お申込み下さい（FAX、郵送も可）。

②千里ライフサイエンス振興財団セミナー事務局より参加証（セミナー当日、受付に提示）をお送りします。

お申込み&お問合せ先：公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル20階

TEL 06-6873-2001 FAX 06-6873-2002

E-mail: dsp@senri-life.or.jp URL <http://www.senri-life.or.jp>

日本神経化学会 賛助会員 (50 音順)

旭化成ファーマ株式会社

アストラゼネカ株式会社

株式会社エイコム

塩野義製薬株式会社

シスメックス株式会社

大正製薬株式会社

武田薬品工業株式会社

田辺三菱製薬株式会社

日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所

Meiji Seika ファルマ株式会社

レノバサイエンス株式会社

謝 辞

本大会を開催するにあたり、下記の企業および団体から多大なご援助を頂きました。
ここに衷心より感謝の意を表します。

●寄附

日本製薬団体連合会

旭化成ファーマ株式会社

あすか製薬株式会社

アステラス製薬株式会社

アストラゼネカ株式会社

アルフレッサファーマ株式会社

栄研化学株式会社

エーザイ株式会社

エスエス製薬株式会社

MSD株式会社

エルメッドエーザイ株式会社

大塚製薬株式会社

株式会社大塚製薬工場

小野薬品工業株式会社

化研生薬株式会社

科研製薬株式会社

キッセイ薬品工業株式会社

杏林製薬株式会社

協和発酵キリン株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

クラシエ製薬株式会社

興和株式会社

佐藤製薬株式会社

サノフィ・アベンティス株式会社

沢井製薬株式会社

参天製薬株式会社

株式会社三和化学研究所

塩野義製薬株式会社

ゼリア新薬工業株式会社

第一三共株式会社

大正製薬株式会社

大日本住友製薬株式会社

大鵬薬品工業株式会社

武田バイオ開発センター株式会社

武田薬品工業株式会社

田辺三菱製薬株式会社

中外製薬株式会社

株式会社ツムラ

帝人ファーマ株式会社

テルモ株式会社

トーアエイヨー株式会社

東和薬品株式会社

富山化学工業株式会社

鳥居薬品株式会社

日本イーライリリー株式会社

日本化薬株式会社

日本ケミファ株式会社

日本新薬株式会社

日本製薬株式会社

日本臓器製薬株式会社

日本たばこ産業株式会社

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

ニプロファーマ株式会社

ノバルティスファーマ株式会社

バイエル薬品株式会社

ファイザー株式会社

扶桑薬品工業株式会社

ブリストル・マイヤーズ株式会社

マイラン製薬株式会社

丸石製薬株式会社

マルホ株式会社

株式会社ミノファージェン製薬

Meiji Seika ファルマ株式会社

持田製薬株式会社

株式会社ヤクルト本社

ロート製薬株式会社

わかもと製薬株式会社

●助成

Meet in 神戸

Wiley-Blackwell Lectureship

中内財団

ふじい財団

●ランチョンセミナー

タカラバイオ株式会社

●企業展示

タカラバイオ株式会社

株式会社高研

株式会社ニコンインステック

●広告

理科研株式会社

投稿規定

1. 日本神経化学学会の機関誌として、日本神経化学学会及び関連学会の活動に関する記事、神経化学領域の研究紹介等の投稿を受け付けます。学会からの依頼原稿以外については、投稿前に、日本神経化学学会事務局または出版・広報委員会の「神経化学」編集委員長にご相談下さい。なお、大会号の掲載記事については、大会プログラム委員会の指示に従って下さい。
2. 投稿原稿の著者は、すべて日本神経化学学会の会員である必要があります。非会員による記事については、日本神経化学学会の承認が得られた場合にのみ掲載します。
3. 投稿内容は、他誌に掲載されておらず、また投稿中でもないものに限りします。
4. 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）を含む著作権及び出版著作権は、日本神経化学学会に帰属します。なお、ここでいう「著作物」とは、紙媒体に限らず電子媒体も含むものとします。ただし、著者自身による使用を拘束するものではありません。
5. 投稿原稿の採否は、通常号については出版・広報委員会が、大会号については大会プログラム委員会が決定します。受理した原稿の体裁は、全体の統一のため出版・広報委員会または大会プログラム委員会において修正することがあります。
6. 執筆要領
（以下は通常号についての要領です。大会号については、大会プログラム委員会の指示に従って下さい。）
 - 1) 原稿は全て電子情報化して下さい。本文は一般的な文書作成ソフト（Microsoft Office Word等）にて入稿をお願い致します。図表・写真も、jpeg、tiff、Illustrator、PowerPoint、Excel等、一般的に使われているデータ形式でご用意ください。解像度については、できる限り高い状態のものでお願い致します。電子情報化できない図表・写真に関しましては、制作会社でスキャニング処理を致しますので原版をお送り下さい（郵送時等に破損する可能性がありますので、極力電子化をお願い致します）。
 - 2) 「神経化学」は、電子媒体を含めて日本神経化学学会が独自の著作権をもつ雑誌ですので、お使いになる図表や写真については他の雑誌との複版にならないようご注意ください。複版の場合は必要に応じた許諾を事前に必ずとっていただきますようお願い致します。
 - 3) 字数制限は設けません。ご参考までに、既刊の「神経化学」をご覧ください。
 - 4) 原稿はプリント出力したもの（図表、写真は、まとめて添付し、本文中に挿入されるべき位置を明示する）と電子媒体（CDないしはUSBメモリー）の両者をお送り下さい。例外として、文章のみの原稿は学会からEメール添付ファイルとして送付していただく依頼をした場合に限りEメールに添付してご送付下さい。
 - 5) 引用文献は、本文中には文献番号を引用順に括弧に入れて示し、本文の最後に一括して引用順に並べて記載して下さい。詳細は、既刊の「神経化学」をご覧ください。
例：
 - 1) Sekine, K., Honda, T., Kawauchi, T., Kubo, K. and Nakajima, K. The outermost region of the developing cortical plate is crucial for both the switch of the radial migration mode and the Dab1-dependent "inside-out" lamination in the neocortex. J Neurosci, 31, 9426-39 (2011).
 - 2) …
 - 6) 投稿原稿の著者以外による未発表データ等を“personal communication”や“unpublished data”として記載する場合は、公表に関してご本人の同意があることを証明できる文書を投稿時に必ず添付していただきますようお願い致します。
 - 7) 原稿の送付先は、学会から著者の方に直接お知らせします。
 - 8) 投稿内容に関連して開示すべき利益相反（conflict of interest）がある場合には、その内容を記事の末尾等に記載して下さい。利益相反に関する一般的な概念については、“Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals”（http://www.icmje.org/ethical_4conflicts.html）をご参照下さい。

理科研は、「バイオ研究」に欠かすことのできない機器・試薬の販売を通じ、
人類の幸せと豊かな社会の実現を願っています。

体内宇宙への挑戦。

■東京支店 東京都文京区本郷3丁目4番2号
 〒113-0033 TEL 03-3815-8951(代) FAX 03-3818-3186
 ■つくば営業所 茨城県つくば市高野台三丁目16-2
 〒305-0074 TEL 029-856-2151(代) FAX 029-856-5071
 ■柏営業所 千葉県柏市若柴197番地17
 〒277-0871 TEL 04-7135-6651(代) FAX 04-7135-6751
 ■神奈川営業所 横浜市緑区十日市場町901-31
 〒226-0025 TEL 045-989-6551(代) FAX 045-989-6701
 ■鶴見営業所 横浜市鶴見区朝日町一丁目49番地
 〒230-0033 TEL 045-500-4551(代) FAX 045-500-4571
 ■三島営業所 静岡県駿東郡長泉町下土狩217番地1
 〒411-0943 TEL 055-980-1101(代) FAX 055-980-1105

関連会社／株式会社 片岡 〒920-1155 石川県金沢市田上本町71-7 TEL 076-263-2011(代) FAX 076-263-2051
 並木薬品株式会社 〒930-0834 富山県富山市問屋町3-11-3 TEL 076-451-4545(代) FAX 076-451-0085

複写をご希望の方へ

日本神経化学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。

本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。但し、企業等法人による社内利用目的の複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター((社)学術著作権協会が社内利用目的の複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はありません。(社外頒布目的の複写については、許諾が必要です。)

権利委託先：一般社団法人 学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3 階

電話：03-3475-5618 FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

複写以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託致しておりません。

直接日本神経化学会(e-mail:jsn@imic.or.jp FAX:03-5361-7091)へお問合せ下さい。

Reprographic Reproduction outside Japan

Making a copy of this publication

Please obtain permission from the following Reproduction Rights Organizations (RROs) to which the copyright holder has consigned the management of the copyright regarding reprographic reproduction. Obtaining permission to quote, reproduce; translate, etc. Please contact the copyright holder directly.

Users in countries and regions where there is a local PRO under bilateral contract with Japan Academic Association for Copyright Clearance(JAACC).

Users in countries and regions of which RROs are listed on the following website are requested to contact the respective RROs directly to obtain permission.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

Website <http://www.jaacc.jp/>

E-mail info@jaacc.jp

Fax +81-33475-5619

神経化学 51巻 第2号

平成24年9月1日発行

編集兼発行者 日本神経化学会

代表者 井上 和秀

発行所 日本神経化学会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館

財団法人 国際医学情報センター内

印刷 株式会社 コングレ